

〈特集「ヴォイスとその周辺」〉

ラオ語

鈴木 玲子

ラオ語のヴォイスとその周辺について、アンケートに従って以下に言語データを示す。インフォーマントは、ダラウォン・チャントコート氏(女性)。1976年、ラオスの首都ビエンチャンに生まれ、同地で育った後、2004年より在日している。なお、ラオ語は個人差が著しい言語である。本データは、インフォーマントが自然でよく話す形であると判断した文のみを挙げる。ラオ語文中の()はあってもなくてもよい、という意味である。なお、日本語文頭の番号は他言語と対照しやすいようにデータ元原稿の番号を付しておく。

(1a) 風などで》ドアが開いた。

(1) patũu pəət

ドア 開く

(1b) (彼が) ドアを開けた。

(2) (láaw) pəət patũu

(彼) 開ける ドア

(1a)の「pəət」は「開く」という自動詞である。(1a)と同じ「pəət」が(1b)では「開ける」という他動詞としてはたらく。即ち、「pəət」は自他同形の動詞である。

ラオ語の動詞について果たして自動詞、他動詞という分類が積極的に有効かどうかは疑問の余地がある。動詞によっては自動詞の前に「het (する)」を置くことによって他動表現にするものもある(例えば「tók (落ちる)」「het tók (落とす)」、「tèek (割れる)」「het tèek (割る)」など)。(1a)(1b)の「pəət」(開く・開ける)のように自他同形のものもある。以下に自他同形の動詞をいくつか挙げる。

「khăy」(開く・開ける)	「môot」(消える・消す)
「pít」(閉まる・閉める)	「?át」(閉まる・閉める)
「phâm」(増える・増やす)	「lút」(減る・減らす)
「pin」(回る・回す)	「hák」(折れる・折る) など

これらの動詞は、「開ける」などの始点、即ち原因から「開く」などの終点、即ち結果まで事象が連続的なものであるという特徴がある。そして「ドア」などの状態の変化を受ける対象は動作主の行為など外部からの力によって変化を受けるといふ特徴があると思われる。これらの点については別稿で詳述したい。

(1c) 入口のドアが開けられた。

(3) patũu tháaŋ khàw pèət

ドア 道 入る 開く

(1a)と同じ表現を使うか、次に示すような「入口のドアを開けた人がいる」という表現をする。受け身表現は使わない。

(4) míi khón pèət patũu tháaŋ khàw

いる 人 開ける ドア 道 入る

(5) *patũu tháaŋ khàw thũuk pèət

ドア 道 入る [受け身] 開ける

次の「壊す」「壊される」のうち、「壊される」は、「壊す」の前に「het」をおいた他動表現の形を使う。

(6) patũu phée ドアが壊れた

ドア 壊れる

(7) het patũu phée ドアが壊された||ドアを壊した

する ドア 壊れる

ラオ語では「状態の変化を受ける対象（ドア）＋不随意動詞（壊れる）」の前に「het」を置いて「対象に状態の変化を生じさせた」という表現にする。

(2) 私は（自分の）弟を立てさせた。

(8) khòy hày nòŋ sáy yũum khùn

私 [使役] 弟 立つ 上がる

「使役主（私）＋hày＋被使役主（弟）＋動詞句【随意動詞＋方向動詞】（立ち上がる）」という使役文の形を使う。この場合、使役主がどのようにして被使役主に働きかけたか、具体的な動詞がほしくなる、というインフォーマントの答えであった。例えば、(8)に「告げる」という動詞を入れて、「私は弟に言って立つようにさせた」という言い方をする

(9) khòy bòok hày nòŋ sáy yũum khùn

私 告げる [使役] 弟 立つ 上がる

私は（自分の）弟を立てさせた。

(3) 私は（自分の）弟に歌を歌わせた。

(10) khòy hàỳ nòŋ sáy hòŋ phéŋ
私 [使役] 弟 歌う 歌

(3)も(2)と同様で、下記のように言ってもよい。

(11) khòy bòok hàỳ nòŋ sáy hòŋ phéŋ
私 告げる [使役] 弟 歌う 歌

(4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた。

(12) mɛɛ hàỳ lúuk pǎy súu khàwcii
母 [使役] 子 行く 買う パン

(13) mɛɛ bǎŋkhap hàỳ lúuk pǎy súu khàwcii
母 強制する [使役] 子 行く 買う パン

(13)の方が「無理強いする」ということがはっきりする。(12)は強制使役でも許容使役でもどちらでもよい。

(4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。

(14) mɛɛ hàỳ lúuk pǎy lín
母 [使役] 子 行く 遊ぶ

(15) mɛɛ ?anupâat hàỳ lúuk pǎy lín
母 許可する [使役] 子 行く 遊ぶ

(15)の方が「許可する」ということがはっきりする。この場合も(14)は強制使役でも許容使役でもどちらでもよい。

(5a) 私は弟に服を着せた。

(16) khòy hàỳ nòŋ sáy nuŋ sùa
私 [使役] 弟 着る 服

(17) khòy ?ǎw sùa hàỳ nòŋ sáy nuŋ
私 取る 服 与える 弟 着る

この場合、「弟は自分で服を着る」。「私」が直接手を下して着せる場合は(18)のように「着せてあげる」という形にする。

(18) khòy nuŋ sùà hàỳ nōŋ sáay 「私は弟に服を着せてあげた」
私 着る 服 与える 弟

(5b) 私は弟にその服を着させた。

(19) khòy hàỳ nōŋ sáay nuŋ sùà tǔo nân
私 [使役] 弟 着る 服 [類] その

(5a)と同じである。強制使役でも許可使役でもよい。

(6) 私は弟にその本をあげた。

(20) khòy ?ǎw púm hǔa nân hàỳ nōŋ sáay
私 取る 本 [類] その 与える 弟

「?ǎw」は「取る」という他動詞で、「[[人]に[物]をあげる」という表現は「?ǎw+物+hàỳ+人」である。ラオ語は一つの動詞に二つの補語をとることはなく、一つの動詞に一つの補語という形をとる。

(7a) 私は弟に本を読んであげた。

(21) khòy ?aan púm hàỳ nōŋ sáay
私 読む 本 与える 弟

「[[人]に～てあげる」は「動詞句+hàỳ+人」を使う。

(7b) 兄は私に本を読んでくれた。

(22) ?ây ?aan púm hàỳ khòy
兄 読む 本 与える 私

(7a)と同じ形を使う。本は自分のところにあっても兄のところでもよい。

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった。

(23) mee tát phóm hàỳ khòy
母 切る 髪 与える 私

(24) khòy hàỵ mee tát phỏm hàỵ
私 [使役] 母 切る 髪 与える

(24)は「私」が希望して髪を切ってもらった文になる。

(8a) 私は(自分の)顔を洗った。

(25) khòy lâaη nàa
私 洗う 顔

もとのデータは「(自分の)体を洗った」であったが、「顔を洗う」の方がよく使うということなので、「体」ではなく「顔」に例文を変えた。

(8b) 私は手を洗った。

(26) khòy lâaη muúw
私 洗う 手

(8c) 彼は(／その人は)手を洗った。

(27) láaw lâaη muúw
彼 洗う 手

(9) 私は(自分のために)その本を買った。

(28) khòy súuw puúm hủa nân (phua tỏn ?ẻeη)
私 買う 本 [類] その (ために 自分 自身)

(10) 彼らは(／その人たちは)(互いに)殴り合っていた。

(29) khacâw ỉi kẩn
彼ら 殴る 互いに

「kẩn」は「～し合う」という意味に近い副詞で、2人以上で成立する動作を表す動詞の後に置く語である。例えば「lỏm kẩn (おしゃべりする)」「hak kẩn (愛する)」「phít kẩn (喧嘩する)」など。

(11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。

(30) khacâw dẻntháaη pắy náy muúaη (námkẩn)
彼ら 遠出する 行く ～の中 町 一緒に

この場合、町に着いていなくてもよい。出発したことだけを述べている。

(12) その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう)。

(31) bəŋ nǎŋ lúɑŋ nân khòy hàỳ lóot
見る 映画 [類] その 私 泣く すぐ

「その映画を見ると私はすぐ泣く」という文を使う。

(13a) 私は卵を割った。

(32) khòy thup khay tèek
私 割る 卵 割れる

「私は卵をつぶして卵が割れた」という動作主の「割った」という結果に至った具体的な動作である「thup (割る)」を入れた文を使う。もしうっかり卵を落として割ってしまった場合には(33)の文を使う。

(33) khòy het khay tèek
私 [使役] 卵 割れる

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った (／割ってしまった)。

(34) khòy het còok tèek
私 [使役] コップ 割れる

意図的にコップを割る場合は次のように言う。

(35) khòy het hàỳ còok tèek
私 [使役] コップ 割れる

(13b) の「私はコップを割った」で意図的にコップを割った場合、(35)の「het hàỳ」という使役の形を使ってもいいが、(32)と同様に本来は具体的な動作を述べる方がよい。

(14a) きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。

(36) múuwaanníi khòy kīn kǎafée lǎay phòot lǎay nóon bɔɔ láp
昨日 私 飲む コーヒー 多い ~すぎる それで 寝る [否定] 眠る

(37) mủturwáannli khòy kìn kăafée lăay phôt het hày nónn boo láp
 昨日 私 飲む コーヒー 多い ~すぎる [使役] 寝る [否定] 眠る

(36)は「lăay (それで)」という順接の接続詞を入れた文で、(37)は「het hày (～させる)」を使って「コーヒーを飲みすぎたことが眠らせなかった」という表現の使役文である。

(14b) きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。

(38) mủturwáannli khòy mii wíak lăay lăay boo dâý nónn
 昨日 私 ある 仕事 多い それで [否定] 得る 寝る

「(たくさんあったので) 眠ることを得なかった」という形である。「(たくさんあったので) 眠ることが得られなかった」という可能表現でもよく、その場合は次のようになる。

(39) mủturwáannli khòy mii wíak lăay lăay nónn boo dâý
 昨日 私 ある 仕事 多い それで 寝る [否定] 得る

(40) mủturwáannli khòy mii wíak lăay het hày nónn boo dâý
 昨日 私 ある 仕事 多い [使役] 寝る [否定] 得る

ただし(39)と比較して(40)はあまり使わないというインフォーマントの答えであった。ラオ語では「眠る」は(14a)の(36)(37)のように「láp」という。一方の「nónn」は「寝る・横たわる」という意味である。「nónn láp」と二語を続けて「寝て眠った」という言い方をよくする。(14b)の「眠れなかった」は「寝なかった・横たわらなかった」ということと同義であるので、(39)(40)は「nónn」の方を使用する。

(15) 私は頭が痛い。

(41) cép hũa
 痛い 頭

ただ単に現在の自分の状態を述べる場合は、「私」を文頭に置かない方が自然である。もし置くと、「他の人は知らないが、私は頭が痛い」と言った他の人と対照させて述べる場合の文になる。

(16) あの女性は髪が長い。

(42) phùu níŋ phùu nân míi phǒm náaw
女性 [類] あの ある 髪 長い

「あの女性は長い髪を持っている」という表現をとる。

(17a) 彼は（別の）彼の肩を叩いた。

(43) láaw tóp lay khǒŋ phùu\khón ?uun
彼 叩く 肩 [所有] 人 他

叩かれた「彼」が叩いた「彼」と別の人物である場合は「別の人の肩」と言う。「別の人」の代わりに「彼」を使うと「自分自身の肩を叩く」ことになる。

(17b) 彼は（別の）彼の手をつかんだ。

(44) láaw cáp múu khǒŋ phùu\khón ?uun
彼 つかむ 手 [所有] 人 他

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。

(45) khòy hěn láaw máa
私 見える 彼 来る

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている。

(46) khòy hūu waa láaw si? máa múuníi
私 知る [補文] 彼 [未然] 来る 今日

(19) 彼は自分（のほう）が勝つと思った。

(47) láaw khít waa láaw si? sana?
彼 思う [補文] 彼 [未然] 勝つ

(20a) 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。

(48) khòy kín nâm
私 飲む 水

水の一部でも全部飲んでもどちらでもよい。

(20b) 私は（コップの）水を全部飲んだ。

(49) khòy kǐn nām mót
私 飲む 水 全て

(21) あの人は肉を食べない。

(50) phùu nân bōō kǐn sīin
人 あの [否定] 食べる 肉

恒常的に食べない場合でもいいし、一時的に食べない場合でもよい。

(51) phùu nân kǐn sīin bōō dāy
人 あの 食べる 肉 [否定] 得る

(22a) 今日は寒い。

(52) mūtuunīi nāaw
今日 寒い

(22b) 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）。

(53) khòy nāaw
私 寒い

「私」と「寒い」の間に「感じる」の「hūusuúik」を入れて下記(54)のようにしてもよい

(54) khòy hūusuúik nāaw
私 感じる 寒い

「寒い」と同じ感覚述語「眠い」については下記のような表現がある。

(55) yàak nōon 「眠い」（眠りたい）
〔願望〕 寝る

(56) nǎw nōon 「眠い」（眠気がある）
足りない 寝る

(57) ǰǎw nónn, tɛɛ míi wíak láəy nónn bəə dáy, yàak nónn
 眠い しかし ある 仕事 それで 寝る [否定] 得る [願望] 寝る
 「眠い(眠気がある)が仕事があるので寝られない, 眠い(眠りたい)」

(23) 私は人がとても多いのに驚いた。

(58) khəy tókăy waa míi khón lăay
 私 驚く [補文] いる 人 多い

(24) 雨が降ってきた。

(59) fǒn tók lêew
 雨 降る [完了]

完了を表す副詞「lêew」を文末に置くことによって、「雨が降る」という現象に至った、という表現をする。

(25) その本は良く売れる。

(60) pūm hǔa nân khăay đii
 本 [類] その 売る よい

「このナイフは良く切れる」という道具主語構文を挙げておく。

(61) mǐit dǔaŋ nǐi khàw đii
 ナイフ [類] この 入る よい

(62) mǐit dǔaŋ nǐi khóm đii
 ナイフ [類] この 鋭利だ よい

(61)の方はかぼちゃなどを2つに割って切るときの「切り込みやすい」場合で、(62)の方はキュウリの皮むきなどがスムーズにできるような「切れ味がいい」場合である。